

団体名		遠野手話サークル「どんぐり」(岩手県遠野市)	
団体の概要	活動開始年	西暦 2001年 11月 活動開始	
	メンバー 人数	< ボランティア数 >	15 ~ 20名
		< 賛助会員数 >	2名
	構成	会社役員、団体職員、聴覚障害者など	
予算規模	平成13年度概算 ・収入 ¥35,760 ・支出 ¥24,157		
団体の目的		手話を中心に学び、地域に住む聴覚障害者や手話を学ぶ仲間達との信頼関係を作り、住みやすいまちづくりを目指す	

ボランティア活動の概要

月4回(昼2回、夜2回)サークルを開催し、手話学習を中心とした活動を行っている。

昼のサークルでは、地域の社会福祉協議会に協力してもらって、視覚障害者を対象とした相談員や視覚障害者を講師に迎えて、手話学習を行っている。また、独自に行事を行ったり、社会福祉協議会等の事業に参加したりして、学習成果を発表できる機会を設けている。夜のサークルでは、メンバーの交流を中心にすえており、現在は、手話コーラスをみんなで勉強している。

子ども会等の地域の団体が手話について学びたいと希望した場合に、出前で教えに行ったりして、地域との接点が出てきた。また、最近では、地元の中学校の総合的な学習の時間に協力しており、中学生や教員が手話の体験をする手伝いをするなど、活動の幅が広がってきた。

組織運営の概要

会長、事務局担当(1名)、広報担当(1名)、会計担当(1名)、会計監査担当(1名)の各役員を決めている。このほかに、手話指導への協力者が2名いる。

役員を選出は、メンバー全員で話し合って納得の上選出している。まだ活動が始まって2年目であるので、全員が合意する方法がよいと思っている。

団体としての意思決定では、まず、参加してくれている聴覚障害者の方の意見を優先している。また、些細なことでも、必ず役員間で話し合ってから、その上で、メンバーと協議して決めるようにしている。

メンバーは随時募集しており、広報誌等に手話講座の紹介を載せたりして広報している。

元気に活動している要因

<要因1：定期的な活動>

活動日を明確にして月4回の定期的な活動を行っている。仕事が忙しくて参加できなかった人は、次の活動に参加する目安ができる。

<要因2：メリハリのある活動>

手話学習がメインであるが、時には、地元の行事で通訳を務めるための練習をしたり、目先を変えて手話コーラスの練習をしたり、メリハリのある活動内容となるように工夫している。子ども会等の地域の団体が手話を覚えたいという時には、可能な範囲で、どんぐりのメンバーが聴覚障害者と一緒に出かけて指導を行っている。また、市や社会福祉協議会等の行事、聴覚障害者関係の行事に積極的に参加するように心がけている。

<要因3：全員参加の活動>

手話学習の活動をしているときには、声で参加者同士が話し合う時間もとって、参加者全員が何も言わずに帰ることがないようにしている。

<要因4：メンバー間の交流を重要視する>

小さなことでも話し合いの場をもって、メンバー間で何度も相談をしている。また、広報担当が決まっていて、毎月発行される機関誌「どんぐり新聞」にメンバーの声を載せて、交流のきっかけづくりを行っている。

今後の課題と展望

地域に手話奉仕員を養成する事業等がないため、手話についてのより専門的な学習ができない。もっとレベルアップしたい人のために、さらに勉強できる場がほしい。

また、より多くの聴覚障害者が参加しやすいような企画を考えて、地域づくりに役立つボランティア活動ができればと思っている。

(団体代表者によるレポート、団体代表者へのヒアリング調査、団体資料より作成)

<この事例のポイント>

手話を習得して活動したいという要望は比較的全国的な傾向であると思われるものの、地方では、活動の対象者である障害者の数が少なく、活動機会がふんだんではない。にも関わらず、この団体は立ち上げ以降、活発な活動を展開している。これは、手話を学ぶという共通のテーマのもとに、仲間作りという交流の要素が加わっていることが大きいと思われる。また、手話コーラスの勉強、子ども会等への出張指導、学校教育への協力、市や社協等の行事への通訳者としての参加など、活動にメリハリをつける工夫も注目に値する。

遠野手話サークルどنگりのように活動を立ち上げてからあまり年月がたっていない団体の場合には、些細なことでもメンバー間で情報共有し、相談し合い、話し合っ物事を決めていくことが組織運営上の大きなポイントとなっている。メンバー間の密な話し合いのなかで総意を得た意思決定をしていくことは、一見時間がかかる方法であるように思えるが、団体内部の信頼関係という基盤づくりを行うためには決して遠回りな道ではない。

この事例は、手話や障害者の状況を“学ぶ”という生涯学習活動が、どのようにボランティア活動となっていくのかを考えるヒントになるものである。